

處理及び含有不純物の影響について研究併せてこの押出所要力の理論式を導いた。

2-42. 衝撃押出の冶金學的研究(第4報) 亞鉛押出材の組織に就て(10) 五弓勇雄。押出材のX線的研究を行ひチューブ底面は壓縮組織側面は壓延組織に等しく破面には六方結晶の底面が出てゐることを確認した。又顯微鏡組織をも調べた。

2-43. Al板の壓延條件と深絞り耳との關係(第3報)(10) 麻田宏, ○田中英八郎, 小池吉藏。エッチングピットの測定から深絞りの時に發生する耳は各種結晶面の分散に支配され, 又これとFe, Si量の影響を述べる。

2-44. 眞鍮板の彈性率の自然變化(10) ○麻田宏, 田中英八郎。冷間壓延した4/6眞鍮板の彈性率はタテ, ヨコで甚だ差異がある。之れを焼鈍した時の變化と常溫に放置した時の變化を報告する。

2-45. 加工硬化した鋼材の疲労(第2報)(10) 福井伸二, ○佐藤四郎。前回に引續きあらかじめ降伏點以上の引張又は壓縮應力を加へて加工硬化せしめた軟鋼材の小野式回轉曲げ疲労について報告する。

2-46. 寫眞用閃光電球の燃焼狀況の高速寫眞(10) 植村恒義。新しい線狀型を始め各種閃光電球を柄原式高速カメラにより撮影し, 球内に於ける發光劑の燃焼傳播狀況を比較觀察した。

2-47. 高速回轉圓盤の破壊について(第2報)(10) ○植村恒義, 歌川正博。一樣な厚みのV1圓盤を熱處理により抗張力を變え, 高速回轉により破壊し, その破斷狀況を試験した。又種々の穴をあけその影響を試験した。

13時—17時

2-48. 鋼の疲労破壊(第1報)疲労破壊の遅れ(10) 横堀武夫。鋼の疲労破壊をおこすまでの繰返數の變動性をしらべた結果, これがある種の確率法則にしたがつていることがわかつた。

2-49. 鋼の疲労破壊(第2報)Rate Processとしての疲労破壊(10) 横堀武夫。第1報における破壊の確率と荷重應力および疲労變質層との關係をしらべ, 疲労破壊を一種のRate Processとして論ずる。

2-50. 銅のクリーブ破壊おくれ(10) 横堀武夫。銅のクリーブ破壊の起る迄の時間の變動性を調べ, 此がある確率法則に従つてゐることを見出し, これをRate Processとして論ずる。

2-51. 上降伏點, 下降伏點および引張強さの頻度分布(8) 中西不二夫, ○横堀武夫。軟鋼の降伏點の變動性をしらべた結果, いわゆる上降伏點は確率論的に論じらるべきことを述べる。

2-52. 疲労耐久限度に及ぼす應力分布の影響(8) 中西不二夫, ○岡本智。耐久限度に及ぼす應力分布の影響は, 靜應力による破損のときの影響と同様であることを實驗によつて明かにしたものである。

2-53. 軟鋼降伏の干渉範圍(10) 中西不二夫, ○林繁夫。∅字形斷面の梁の曲げ實驗によつて, 降伏に干渉する範圍, および上下兩降伏點の關係を明かにしたものである。

2-54. 圓筒形ゴムの彈性的性質について(8) 吉村慶丸, ○植村益次。體積一定の變形をするゴムの彈性的性質を研究する第一歩として, 微小歪の場合に就き, 圓筒兩端面に荷重を受ける時の變形狀態を解析した。

2-55. 有限變立理論における平衡方程式について(13) 吉村慶丸。有限變位の場合の取扱い方によつて種々の平衡方程式が得られること, 應用として内部歪の應力場に對する影響を考へた。

2-56. 平行四邊形板の彈性力學(10) 吉村慶丸。平行座標による平面板の彈性力學を取扱い, 特に二次元應力問題, 平行四邊形板の基礎方程式を導く。

2-57. 木船構造に於ける接手の研究(第8報)(10) 吉識雅夫, ○竹鼻三雄。木材接手に於ける圓筒及平面々壓につき, 米槍を試験片とし, 圓筒直徑荷重板巾及び荷重方向の影響を實驗によつて比較した。

2-58. 小荷重に依るヴィッカーズ硬度値について(II)(5) 福井伸二, ○清野次郎。前報にひきつゞき, 二三の材料の表面を電解研磨し, 1kg迄の小荷重でヴィッカーズ硬度を求めて, 大荷重での測定値と同じ値を得た。

2-59. 面心立方格子金屬の壓延組織と深絞り耳の關係について(10) 工藤英明。G. I Taylorの多結晶體の塑性變形理論を用いて, 面心立方格子金屬の壓延組織と深絞り關係を求めた。

2-60. 角絞りについて(10) 福井伸二, ○竹山壽夫, 吉田清太。三種の板取りについて厚さ1mmのアルミニウム板の絞り限界を求め歪を測定して圓形絞りと比較する。

2-61. 金屬薄板の塑性曲線(10) 福井伸二, 工藤英明, ○吉田清太。軟鋼板, アルミ, デュラルミン黄